

あやなり

a y a n a r i

文教大学学園
校友会報

2020.8.31 第7号

発行：文教大学学園

編集：経営企画局 経営企画課

[特集1] [特集2]

付属校の英語教育

新しい学び舎とともに



作品

書道家

島崎鳳濤さん

立正学園満の口小学校
1957年卒業

02 学園理事長の挨拶

03 文教大学学園の概要、文教HOT Topic

12 文教人／139,000

14 恩師便り

16 校友会の輪

18 学園NEWS

文教大学学園の卒業生や現役・退職教職員など、関係者の皆さまにお送りする広報誌、

「あやなり」第7号をお届けします。文教大学学園の各校の情報や、

卒業生・退職された先生方へのインタビューなど、楽しんでいただける内容を掲載いたしました。

この「あやなり」が、人と人、人と学校をつなぐ場であればと願っています。

あやなりとは

「あや(文=文教)は人なり」という想いを込めて。いにしえの時代、「あや・文」は物の面にあらわれたいろいろな形、さまざまな線が交錯した模様を指す言葉として使われました。「あやなり」もさまざまな情報を発信し、皆さまの目を楽しませる冊子を目指します。



「あやなり」第7号をお届けします

このたびの新型コロナウイルス感染症拡大やそれに伴う社会情勢の変化を受け、卒業生の皆さまにおかれましては様々な困難とともに不安な日々をお過ごしのことと拝察し、心よりお見舞い申し上げます。

本学園では、新型コロナウイルス感染症拡大防止および在学生・ご家族の皆さまの健康と安全の確保を最優先に対応してまいりました。また、オンラインによる授業の実施等で、在学生の皆さまにはご不便をおかけいたしました。前向きに取り組んでいただき、ありがたく思っております。一方、卒業生の皆さまやご家族の方からは、ご支援に関するあたたかいお申し出をいただき、たいへん心強く感じております。

「あやなり」は、卒業生や現役・退職教職員向けの広報誌として2014年に創

刊し、第7号となる今号は2021年4月に開設する文教大学「東京あだちキャンパス」の紹介と、開設の地である足立区の区長と学長の対談、足立区ゆかりの卒業生を中心に編集を進めました。また、毎号好評な懐かしい先生方の近況をお伝えすることで、皆さまが旧交を温めるきっかけになれば、と考えております。

学園は2017年に創立90周年を迎え、新たに100周年という目標に向けて歩み出しました。建学の精神であります「人間愛」を大切にしながら、皆さまが学園各校の卒業生、現役・退職教職員であることが、誇らしく思えるような学園づくりに、さらに取り組んでいく所存です。今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、「あやなり」第7号をお楽しみください。



文教大学学園 理事長
野島 正也

文教大学附属幼稚園

開設:1927(昭和2)年
園児数:142名
園長:保田 昇
所在地:旗の台キャンパス
〒142-0064
東京都品川区旗の台3-2-17
Tel:03-3781-2798



文教大学附属小学校

開設:1951(昭和26)年
児童数:326名
校長:島野 歩
所在地:石川台キャンパス
〒145-0065
東京都大田区東雪谷2-3-12
Tel:03-3720-1097



文教大学附属中学校・高等学校

[中学校]
開設:1947(昭和22)年
生徒数:531名
[高等学校]
開設:1948(昭和23)年
生徒数:798名
校長:戸田 弘美
所在地:旗の台キャンパス
〒142-0064
東京都品川区旗の台3-2-17
Tel:03-3783-5511(代)



文教大学・大学院

開設:1966(昭和41)年
教育学部:1,570名
人間科学部:1,715名
文学部:1,573名
情報学部:1,241名
国際学部:1,108名
健康栄養学部:422名
経営学部:729名
大学院:78名
専攻科教育専攻科:2名
外国人留学生別科:11名
(合計 8,449名)
学長:近藤 研至
所在地:
[越谷キャンパス]
〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337
Tel:048-974-8811(代)
[湘南キャンパス]
〒253-8550 神奈川県茅ヶ崎市行谷1100
Tel:0467-53-2111(代)



越谷キャンパス



湘南キャンパス

文教 HOT Topic



文教大学公式ホームページが リニューアルしました

2020年5月、大学の公式ホームページがリニューアルしました。

学生たちの普段の生活が見えるよう、写真を多く使ったデザインにしました。掲載内容を整理し、知りたい情報に早くたどり着ける設計を目指しています。

また、受験生向けに、自分の取りたい資格や免許から学部をさがせるコンテンツも追加しました。



今後も、よりわかりやすく、使いやすいホームページを作っていきます。ぜひご覧ください。



<https://www.bunkyo.ac.jp/>

「あやなり」Webサイト公開中!

「あやなり」の誌面には載せきれなかった、現役生・卒業生・恩師のこぼれ話や東京あだちキャンパス情報、卒業生のお店情報などを「あやなり」Webサイトに掲載しています。ぜひご覧ください! Webサイトから「あやなり」アンケートにもお答えいただけますので、ご協力いただけますとうれしいです!!



「卒業生のお店紹介」掲載店募集中!
掲載をご希望の方は、経営企画課(alumni@stf.bunkyo.ac.jp)までご連絡ください。



<https://www.bunkyo-ayanari.jp/>

[特集1]

新しい学び舎 とともに



★ 文教大学東京あだちキャンパス誕生 ★

2021年4月、東京都足立区花畑に
文教大学東京あだちキャンパスが誕生します。
新しい学び舎ではどんな「育て」の物語が紡がれていくのでしょうか。
新キャンパスのこと、その拠点となる足立区のことを
さまざまな角度からお伝えします。
ぜひ皆さまも気軽にお立ち寄りください。

東京あだちキャンパスには湘南キャンパスから国際学部と経営学部が移転します。東京、埼玉、神奈川に3つのキャンパスをもつことで、人、知、地域などの循環により新たな知と大きな力が生まれることとなります。

東京あだちキャンパスは、地域・社会との“和”、人と人との対“話”、人と環境にやさしい循“環”の3つの“わ”をつくり出す「場」として、文教大学の新たな未来を拓いていきます。

2020年度まで

越谷キャンパス

教育学部
人間科学部
文学部

湘南キャンパス

情報学部
健康栄養学部
国際学部
経営学部

2021年度以降

越谷キャンパス

教育学部
人間科学部
文学部

湘南キャンパス

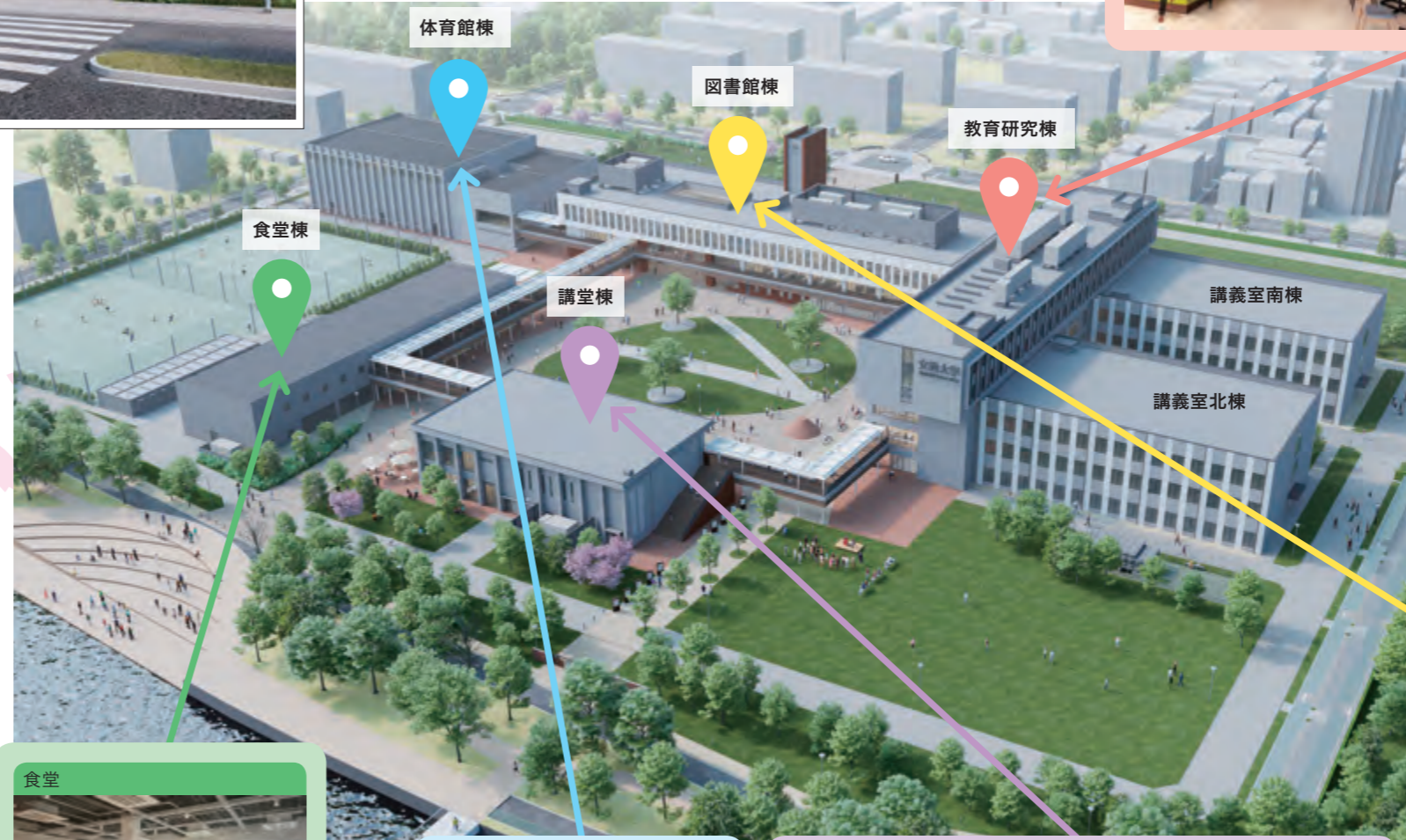
情報学部
健康栄養学部

NEW / 東京あだちキャンパス

国際学部
経営学部

地域に開かれたキャンパス

学生はもちろん、教職員、地域住民の方々など、多くの人に愛される開かれたキャンパスを目指して、周辺環境との連続性をテーマに設計されています。キャンパス中央の広場「ケヤキコート」のほか、地域に開かれた施設がたくさん。もちろん卒業生の皆さまにもご利用いただくことができます。



あやなり NEWS

東京あだちキャンパスの工事用仮囲いを利用したアートに、あやなりに登場いただいた文教人のお二人がご協力くださいました。
設置期間：2019年11月～2020年8月(予定)

「あやなりWebサイト」に他の作品も掲載しています。ぜひご覧ください。



唐橋 充さん(vol.2登場)の作品



須賀 達郎さん(vol.5登場)の作品

もっと知りたい花畑地区

教育熱心な風土

東京23区の一帯北に位置し、四方を川に囲まれている足立区は、江戸時代に「千住宿」があった千住地区を中心に、人や物が行き交う拠点として発展。商取引などで文書の活用がされるようになり、文字や学問への関心が高まり、多くの寺子屋が開かれた。東京あだちキャンパスのある花畑地区も、毛長川に面し水上交通の要所であったためか、千住地区に次いで寺子屋が多く開かれ、教育、特に算学(和算)が盛んな地域だった。

所在地 〒121-8577 東京都足立区花畑5-6-1

アクセス
東武スカイツリーライン
谷塚駅から徒歩約13分
竹ノ塚駅からバス約15分
つくばエクスプレス
六町駅からバス約10分



※完成イメージ図です

|| 特 | 別 | 対 | 談

足立区長 近藤やよい × 文教大学学長 近藤研至

地域に開かれたキャンパスとして建設が進む「東京あだちキャンパス」。キャンパスの開設にあたり、大学としてどんな形で地域づくり、まちづくりに貢献していけるでしょうか。その期待と抱負について、足立区長 近藤やよい氏と意見を交換しました。



近藤研至

文教大学学長。岐阜県多治見市出身。文教大学教育学部卒業。上越教育大学大学院、筑波大学大学院を経て平成4年より文教大学着任。平成29年に学長就任。

近藤やよい

足立区長。東京都足立区出身。警視庁警察官、青山学院大学大学院経済学博士前期課程修了、税理士、都議会議員を経て平成19年に足立区長に就任。



人を育てる教育機関として、地域づくり、まちづくりに貢献できる大学でありたい

足立区花畑、毛長川のほとりに開学する「東京あだちキャンパス」

学長 今日は『あやなり』の対談で足立区役所にお邪魔しております。場所をご提供いただきありがとうございます。どうぞよろしくお願いたします。

区長 こちらこそ、よろしくお願いたします。

学長 いよいよ来年4月、「東京あだちキャンパス」が花畑地区にオープンするわけですが、地域の方には大変うれしい反応をいただいでいて、本当にありがたく感じています。地域の方とお話しさせていただきまして折に、「学生が来ることでご迷惑をかけるかもしれない」と申し上げると、「若い方が来てくれるだけで、まちに活気と安全が生まれるのだ」とおっしゃっていただきまして、大学が来ることを前向きに受け止めてくださっていることを、涙が出るほどうれしく思いました。

区長 花畑は現在では住宅地ですが、歴史をたどっていきますと江戸時代、千住地区に次いでたくさんの寺子屋や家塾が開業された地域です。特に算学(日本の算数)を教えるところが多かったという特徴がありまして、もともと「学ぶ」ことに前向きな土地柄だったと言えると思います。

学長 そうでしたか。本学は、教育の充実が国の発展につながる、というのが開学の原点なんです。そのことからすれば、文教大学と花畑地区の親和性を大いに感じます。本学がこの地で新たにスタートすることで、文教地区としての花畑を復活させ、足立区全体の教育を底上げしていく。その部分に、僭越ながら力を発揮できるのではないかと感じています。

区長 非常に頼もしく感じています。学校の先生になられる学生が私学の中で一番多いと伺っていますので、花畑で学んだ学生さんが将来、区内の学校で教鞭をとる。そうした流れができてくると、大学、地域、自治体の新しい連携の形が形成されるのではないかと期待しています。

足立区民の一員として、地域の教育をどう支援できるか

学長 フレデリック・ワイズマン監督のドキュメンタリー映画『ニューヨーク公共図書館エクス・リプリス』を見た時に、大変感動しましてね。図書館が「知」と「情報」と「人」を結びつける場となっていて、この姿は、地域との関わり合いにおいて大学が向かっていくべき姿ではないかと感じました。地域に「開いている」という感覚はすごく大事なことだなど。

区長 開設が決まった時に唯一お願いしたのは、キャンパスに「壁を作らないでいただきたい」ということでした。私事ですが、私が小・中学校の頃は周りに大学生がいなかったのが、具体的に大学進学へのイメージをふくらませることができませんでした。ですから、足立の子もたちに大学生が学ぶ姿や学究的雰囲気に触れさせてあげたい。それが日々の学ぶ意欲につながっていけばと思っています。

学長 先日建築中の東京あだちキャンパスに行ってみましたら、図面で見ると以上に広々と開放的なんですよ。小学校の帰りに大学に寄ったり、散歩をしてキャンパスのベンチで休んだり、学びの場としてだけでなく、日々の営みの場の一部にキャンパスが役立てられ、そこから地域全体の「交わり」が生まれる場所になることを願っています。

区長 図書館や食堂も使わせていただけると聞いております。人生100年時代。定年を迎えた後の学び直しの場としても、大学が持っている可能性は大きいと思います。「育ての、文教。」と謳っておられますが、足立区も育てていただきたいです(笑)。

学長 いやあ、芥川賞、直木賞の受賞者が卒業生から出ましたが、育っちゃった?という感じで(笑)。

区長 すばらしいですね。

学長 日本経済新聞の、企業の人事担当を対象とした調査では、「採用を増やしたい大学」という項目の第2位に本学がランキングして驚いているんです。「育ち」は様々な形で現れてきます。育てようとした先に理想として

いる育ちが必ずしもあるわけではありません。大学は育ちにどう関われるかが重要だと、最近考えを新たにしています。子どもたち、学生、地域の方たちの育ちをどう支援していくか。あだちキャンパスという、育てる場、地域に開かれた場の用意はできました。次は育ちに関われるインフラを整えることを意識して進めたいと思っています。

大学と教育がシビックプライドを形成していく

区長 千住地区は昨今では、不動産・住宅情報サイトなどに「住みたい街」としてランキングされるようになりました。その人気のもとをたどっていくと、大学開学にたどりつきます。これまでなかったような洒落なお店ができたり、古民家が素敵なお空間に変わったり、思ってもみなかった変化が起こっている。大学によってまちが変わり、住んでいる人たちにもプライドが生まれていることを実感しています。今度は花畑でどんな化学変化が起こってくるのか。地域の方たち同様、私もワクワクと、胸躍るような気分です。

学長 ありがとうございます。千住は商業地区が広がるエリア、一方花畑地区は住宅街が広がるエリアです。これまでの5つの大学にないものを、花畑地区で生み出せるのではないかと。花畑地区のランドマークを目指していきたいと思っています。

区長 大学が来ることで区民の自己肯定感や、地元に対する誇りが高まる。また内外からポテンシャルを持ったまちとして、認められつつあります。大学によってまちが変わることはもちろん、住んでいる人たちの意識、生活、暮らしが変わっていくことが何より大きなことだと思います。

学長 花畑の方たち自身も、大学が来ることによってまちを、自分たちの暮らしを変えるのだという期待を持っておられると感じています。大学と地域と、一步一步の交わりの中からお互いが笑顔になれる関係性を築いていきたいですね。今日はありがとうございました。

文教人 in 足立区

～文教人/139,000 特別編～

足立区出身や足立区で活躍している文教人に
足立区との関わりやおすすめスポットを聞きました。



浅井 えり子さん

1988年オリンピックソウル大会
へ女子マラソン日本代表として
出場。足立区教育委員、帝京科
学大学客員教授

文教大学人間学部人間科学科
1982年卒業

人生をかけてきたマラソンで地域に貢献

陸上競技を始めたのは都立足立高校に入学してからです。3年生の都大会で予選落ちしたことが、大学でも陸上を続けるきっかけとなりました。現在は客員教授として、帝京科学大学駅伝部のアドバイザーをしています。ここで選手たちに伝えることは、文教大学でご指導いただいた梶原洋子先生の教えです。先生がおっしゃったことは「まずは自分で考えなさい」ということ。自分がどうしたいのか、自分がどうなりたいたのか。アスリートは、受け身では絶対に強くなれません。選手自身の考えがあって初めて、指導者は的確なアドバイスができますし、選手も聞く耳を持っているのです。そうやって自分も強くなっていきました。

大学を卒業して実業団で競技を続け、ソウルオリンピックに出場。実

業団を辞めて引退してからは、マラソンの指導者として活動しています。足立区生まれの、足立区育ち。実業団時代の14年間をのぞいて、ずっと足立区に住んでいます。2017年から足立区教育委員会の委員も務め、オリンピックとして子どもたちのスポーツ振興のために何ができるか、取り組んできました。人生をかけてきたマラソンで育ったまちに貢献できるなんて、とてもありがたいことだと思っています。

母校のキャンパスが足立区に誕生することは、「ようこそ!」といった感じで大変うれしいです。花畑地区は毛長川が流れる自然豊かな地域。地元の人たちに愛される、足立区民に開かれた学校であってほしいです。

足立区の
ココが
おすすめ!



荒川河川敷

マラソンコースが好きでよく走っています。空が大きくて、東京の空が全部見える感じで、開放的な気分になれます。



芳賀 幸広さん

足立区立桜花小学校校長

文教大学教育学部初等教育課程
社会専修 1982年卒業

大学生の存在が子どもたちの未来を創る

桜花小学校のある花畑地区に、母校の新キャンパスが開設されることは「うれしい」一言です。身近にお兄さん、お姉さんという存在があることが、子どもたちにどのような影響をもたらしてくれるか。教育実習などで学生が来ると子どもたちの目の輝きが変わるのを見ているから、早く来ていただきたいというのが率直な気持ちです。学生の方たちには小学校の運動会や学芸会などの行事に参加していただいたり、子どもたちは大学の催しに参加させていただいたり、積極的な交流が生まれることを期待しています。

子どもたちは日々の学びを通して、具体的な将来の目標が見えてくるのが大切です。勉強は自分の考えや視野を広げるために必要なのだと

いうこと、今の勉強が自分の将来に結びついているということを感じられるよう指導しています。ですからキャリア教育はとても大事。文教大学の学生が学ぶ姿を間近に見ることができるのは、子どもたちにとってリアルなキャリア教育となることでしょう。そして最終的には、自分で考えて行動できる力を身につけてほしいです。

35年の教員生活のうち、19年は足立区内の小学校で教鞭をとってきました。足立区は公園が多くて、子どもを育てるのによい環境だと思います。区立小学校では「おいしい給食」として食育を推進していますし、学力向上を目指した取り組みも進んでいます。文教大学と足立区の連携のもと、文教の学生が教員として着任してくれたらさらにうれしいことです。

足立区の
ココが
おすすめ!



元洲江公園

釣りのできる大きな池や緑の広場がある公園です。園内には区立生物園もあって、さまざまな生き物を観賞できます。



吉澤 はる江さん

絵本文庫「しずく」主宰
民生・児童委員

立正女子大学短期大学部
文芸科 1973年卒業

感動の“しずく”が集まった絵本を地域に

私の家も夫の家も先祖代々ここ、^{おきの}足立区興野に住んでおり、200メートル先の家に嫁ぎました。吉澤家は私たちの代で17代目と聞いています。文章を書くのが好きで立正女子短期大学部文芸科に進み、卒業後は企業の社内報を作る仕事を経験し、結婚を機に退職。以来、ずっと地域と関わりながら生きてきて、地域に育ててもらったという気がします。

子育て中の1980年代、区が主催する子育てセミナーに参加したことが、手作り絵本との出会いでした。書くことの楽しさ、本を作る夢を呼び覚ましてくれる機会となりました。児童館、図書館、学童保育などで子どもと関わる仕事に携わってきましたが、いずれも手作り絵本を作ったり、読み聞かせをしたりと、絵本を通して子どもたちとの心の交流も

大切にしてきました。それが一つの形となったのが、地域の居場所として自宅に開いた絵本文庫「しずく」です。少しずつ集めた絵本500冊を地域の方たちに開放し、絵本の手作りもできる私設図書館です。「絵本は感動の“しずく”が集まったものだ」とは絵本作家の故まついのりこさんの言葉ですが、絵本は短いお話の中に感動の芽が詰まった読み物です。素敵な言葉と絵に出会うことができ、たくさんの気づきももらえる。子どもたちだけでなく、大人になっても必要ではないかなと思います。

東京あだちキャンパスが開設される花畑の図書館でも、「手作り絵本講座」を年に1回やっています。文教大学が来ることで地域がどう変わるか、楽しみです。

足立区の
ココが
おすすめ!



花畑公園

東京あだちキャンパスができる花畑地区にある公園です。日本庭園もあり、四季折々の自然がすばらしいです。

付属校の英語教育

グローバル化に対応し、英語が使える人材を育てるため、早い時期から英語教育を行おうとする英語教育改革が2020年度よりスタートしています。そこで、文教大学学園の各校での英語教育の取り組みを紹介していきます。

文教大学付属幼稚園

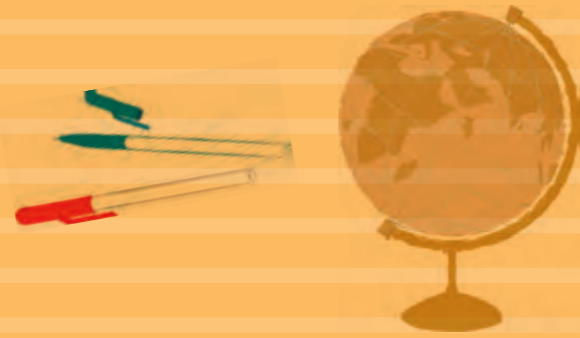
みんなで楽しく自然に英語に親しむ

英語の楽しさを伝えることを目的に、年長クラスを対象に45分のレッスンを週1回実施しています。音楽教育による教育プログラム(Education Through Music)を取り入れ、英語の歌遊びを通して、英語のリズムや単語力を楽しみながら身につけています。

PICK UP!

絵本の活用

知識よりも「良い音」を身につけることを大切にしており、レッスンでは必ず欧米の子どもたちが使っている絵本を読んでいます。ストーリーを楽しみながら色の名前を英語で覚えるなど、学びの要素も盛り込んでいます。



文教大学付属小学校

目の前の人と心と心を通い合わせることができる人に

勉強のためだけでなく、国際人として相手を理解するためのツールとしての英語を大事にしています。オーストラリア短期留学や江東区の体験型英語学習施設での実習など、英語を使って「通じる」「話せる」喜びを感じる機会をつくることを大切にしています。

PICK UP!

イングリッシュタイム

毎日、朝と昼の放送で、児童が先生と英語でやりとりします。スピーカーは毎日交代して全員に順番が回り、高学年になるほど質問が長文になります。学年を越えて互いの英語力に刺激を受ける機会となっています。



文教大学付属中学校・高等学校

6年間の英語教育を通じて思考力、判断力、表現力を養う

英語教育を「英語を使って教育すること」と捉え、中学校では英語で事実を伝えること、高等学校では英語で伝えるように表現することを大切にしています。教科書で学んだことを自分ごとに置き換えて実践する機会を設けたり、授業内容をビジュアル化して伝えたり、「インフォグラフィック」や「オンライン英会話」を取り入れたりと、生徒が理解しやすい工夫を重ねています。

中学校では3年生の2月に行う「スピーチコンテスト」、高等学校では3年生の2学期に行う「プレゼンテーション」での発表が一つの目標となります。また、海外研修としては、オーストラリア短期・中長期留学やセブ島英語研修、台湾修学旅行があり、留学制度としては、台湾の大学留学に向けた中国語講座を行っています。

PICK UP!

スピーチコンテスト

中学3年生・高校1年生・高校2年生のクラスの代表が発表します。学年ごとにテーマが設定されており、2019年度の中学3年生のテーマは「My Hero」でした。上級生の発表を見ることもこのコンテストの大切な側面です。

プレゼンテーション

中学1年生では暗記した英語を漏れなく発表することに精一杯だった生徒たちが、高校3年生のプレゼンテーションでは、聞いている人に伝わるように構成を組み立て、自分の言葉で表現できるように変化していきます。



2019年度スピーチコンテストの様子。発表の場を行事として設定することで、全員が「学んだ英語を使って自己表現する場」を目指すことができます。

わたしの英語学習記



野中 太一さん

文教大学付属高等学校3年生

中学生の時は英語が苦手で、何がわからないのかもわからない状態でした。文教大学付属高等学校に入り、暗記→練習→復習を繰り返す指導と出会い、単語と単語の関係性に気づくなど知識がつながってきたことで、英語が楽しくなりました。

文教大学が開催する『高校生のための「英語の先生」体験セミナー』に高校1年生から2年続けて参加。将来は中学校や高校の先生になって、自分が体験した「できないことができるようになった経験」を伝えていきたいです。



『英語の先生体験セミナー』では、高校生が英語の教師役になり授業を行います。「自分ができることでも、聞く人にも理解できるように伝えるのは難しいと感じました」(野中さん)

SPECIAL INTERVIEW

英語教育のいま、これから

これまでの日本の英語教育では、英語が使える人材を育てられていない、諸外国に比べて開始時期が遅いといった課題があり、特にビジネス界から改善を期待する声があがっていました。2020年教育改革では、小学5年生から英語が「教科」になることが注目されていますが、ただ前倒しになるのではありません。英語を技能として活用できる人材の育成を目的に、「〜がわかる」から「〜ができるようになる」を目指す授業へとシフトします。たとえば「Do you have a pen?」と聞かれたら「Yes,

日本の英語教育はどのように変わろうとしているのか、そして子どもたちにとって大切なことは何か、英語を教えることの専門家である国際学部の阿野先生に聞きました。

I do.」と答えることではなく、ペンを渡せるようになることを重視していきます。そのため、小学校では「発音してみる」ことや「使ってみる」ことなどを重視し、中学校ではその内容を反復し、知識を技能として活用していくこととなります。何よりも、早い時期から子どもたちに「英語は楽しい」と感じてもらうことが大切なので、家庭でも英語の音楽や映画などに触れられる環境をつくれるとよいですね。

阿野 幸一先生

文教大学国際学部国際理解学科教授。コミュニケーション能力育成のための英語指導法と教材開発を研究。小学校・中学校で使われている英語教科書『NEW HORIZON』の編集代表も務める。



卒業生の数だけ文教人がいる!

文教人 / 139,000

幼稚園から大学院まで擁する文教大学学園。

卒業生は13万人を超え、全国のさまざまなジャンルで活躍しています。

そんな「文教人」を追って、インタビューを行うこのコーナー。

文教大学学園時代の思い出から、現在の活躍まで、お話を伺いました。



書とは表現。 筆の先から生まれる線が メッセージを発する

島崎 鳳濤さん
Houtou Shimazaki

[現職] 書道家
[卒業年] 立正学園溝の口小学校 1957年卒業

開設した溝の口小学校の初めての入学生

2014年、書家・島崎鳳濤さんはフランスで開いた個展のテーマを「音のない音楽」とした。リズムや音の流れ、起伏によって聞く人の感情に働きかけるのが音楽なら、書も同様に、線の躍動感や墨の濃淡、かすれや滲みによって情緒を生み出す芸術であるとの思いからである。この個展によって、漢字を知らない国の人たちは絵や詩を味わうように書を受け止め、島崎さんの表現は称賛を持って受け入れられた。

島崎さんが近くの書道教室に通うようになったのは5歳、溝の口小学校に入学生する1年前のことだ。昭和26(1951)年に開設した溝の口小学校の入学生第一号は、島崎さんの世代である。入学者数が少なく、生徒同士の仲が良く先生たちとの距離も近い。当時校庭は荒地で、授業の何時間かは「校庭整備」の時間に充てられた。小石を拾って集めたり、草むしり

をしたり、「すごくおもしろかった」のは先生たちがおもしろくなるように仕向けてくれた結果だったのだろう。「舞踊」の時間など特色ある授業も当時から取り入れられていた。

実業の世界から筆一本で立つ書家へ

小学4年生からは静雅書道会本部で学び、白い紙を墨で汚すことを楽しんでた少年は、漢字にはさまざまな書体があることを知り、中国の拓本など書き写すことに夢中になる。

「やがて書によって『表現』できることに気づくと、いつしか書家になることを夢見るようになりました。しかし島崎家の本家は鎌倉時代後期から続く家で、生家は大山街道で家具屋を営んでおり、私は長男ですから書家になるなんて夢のまた夢。高校を卒業すると書道道具を持って大阪へ丁稚奉公に行きました」

実業の世界で約40年。55歳の時に商売を縮小して書道教室を始め、十代の頃の夢が一気に具現化していく。国内外での個展、作品集の出版など、時を待っていたマグマが噴出するような精神的な活動は、76歳を迎えた現在も続いている。「人に訴える何かがあるか、常に考えています」。目指すのはメッセージ性があり、人を感動させる書。昨今は色墨を使い表現の幅を広げることを楽しんでいる。



今号の表紙は島崎さんの作品

「建学の精神『人間愛』から生まれる人と人との関わりあい、スタンドグラスをモチーフに表現しました。スタンドグラス調にすることで西洋と東洋の融合、世界の調和を表しています」

より高い専門知識とスキルを身につけ、 患者さんに寄り添う

永野 楠津紀さん
Natsuki Nagano

[現職] 日本医科大学武蔵小杉病院看護師
[卒業年] 文教大学付属高等学校 2006年卒業



専門書やノートはいつでも確認できるようにロッカーに。ポケットにはスケジュール帳を常備。

文教大学付属高等学校2年生の時に「将来は看護師になると決めた」と言う永野楠津紀さんは、今年で看護師になって11年目になる。内科病棟から外科病棟を経て、現在は外科外来に勤務。特に「乳がん看護認定看護師」の資格を生かし、患者さんがどんな治療方法を選ぶのか相談に乗ったり、日常生活の悩みを聞いたりするなどのサポートを行っている。

永野さんには、忘れることのできない患者さんがいる。看護師になって1年目、初めて受け持った患者さんで肺がんだった。治療の甲斐なくお亡くなりになったが、その方と関わったことで「がん看護」へのこだわりが生まれた。

「今でもお顔を思い出します。私にもっと専門知識があったら、もっといろいろなことをして差し上げられたのではないかなと思うんですね。それが認定看護師を目指したきっかけです。特に乳がんは40～50代の働きざかりの女性が罹患するケースが多く、デリケートなケアが求められる病気です。同性として看護の力を発揮できるのではないかなと思いました」

現在は新型コロナウイルス感染症の拡大によって、受診はしたいけれど、病院へ来るのをためらってしまう患者さんたちが多くいる。そうした個々のケースに寄り添い、対応している日々だ。

健康で幸せであるために、 ゆるやかなつながりを持つ

藤田 融さん
Toru Fujita

[現職] 藤田歯科医院院長
[卒業年] 文教大学付属幼稚園(越谷幼稚園) 1977年卒園



受付を抜けた待合室には長い木のテーブルが置かれ、壁には天井まで届く書棚。思い思いの本を手に取りイスにつくと、前の人と目が合いなんとなく微笑みを交わす。そんな風景が生まれそうな空間である。院長の藤田融さんは三代この地で続く歯科医。越谷幼稚園の卒園生である。2012年に「つながりが自然に生まれる場」であることをクリニックのあり方の一つと考え、隣にカフェのある現在の形に医院をリニューアルした。

「歯の健康をサポートするのが私の仕事ですが、同時に、その方全体の健康と幸せに貢献したいという思いがあります。ソーシャルヘルス(社会的健康)という考え方がありますが、地域や人と「つながっている」という感覚を持てるのが、健康で幸せに

生きるために大切な条件の一つではないかと思うんです」

地域への思いは幼稚園時代の記憶へとつながっていく。元荒川の流れ、出津橋、園庭での泥んこ遊び。草の匂いのする中で育ち、どこへ行っても戻ってくる場所はここだという思いがある。そしてこの場所は、住んでいる人たちが豊かな生活を送れる場所であってほしい。カフェでは図書を持ち寄った「まちライブラリー」というイベントも開催し、ゆるやかなつながりの場を自ら創造している。



北越谷駅前にある藤田歯科医院。街づくりへの思いを込めたシンボルマークを配したのれんが目印だ。



恩師便り

先生! お久しぶりです!

かつて文教大学学園で教壇に立っていた懐かしい恩師の方々の近況をお伝えします。今回は、3名の先生方に近況と文教時代の思い出を語っていただきました。



教員は学生の眠っている力を掘り起こす仕事

井上 節子先生
Setsuko Inoue

昭和48年文教大学女子短期大学部栄養科に着任。平成22年短大閉学に伴い、文教大学健康栄養学部管理栄養学科へ異動。令和2年3月退職。脂質の抗酸化をテーマに、食品による抗酸化を研究し商品開発なども行う。趣味は登山。

今年3月に47年間勤めた文教大学を退職しました。退職後は夫の仕事の関係で海外へ行く予定だったのですが、コロナウイルス感染症パンデミックで鶴沼の自宅と箱根強羅の別荘を行ったり来たりという生活を送っています。昨日は私の研究テーマである「抗酸化」に興味のある学生、教員が集まった「抗酸化研究プロジェクト」のメンバーと兵庫県でタマネギの皮を使った商品を開発している企業とでオンライン会議を行いました。タマネギの外皮には、すぐれた抗酸化作用を持つケルセチンが多く含まれており、文教大学と企業が協働で行う、タマネギの外皮を使った抗酸化商品の開発に関する会議です。商品開発については学生の「やりたい」という気持ちが非常に強く、私としては企業のお手伝いではなく、学生・卒業生が企業とパートナーシップに基づいた共同研究・開発ができるようしっかり見守っていくつもりです。

もともと日本画家が所有していた強羅の別荘は、京都の宮大

工による日本建築で、庭のアトリエは学生たちの教室になりました。私のゼミでは必ず学会発表を行っていき、春に研究テーマを決めて実験を行い、分析、論文を書いて秋に学会発表。その準備のために春・秋の2回、別荘に泊まって取り組みました。大学院生や研究者に混ざっての発表は大変緊張する場であり、手厳しい批判も受けます。しかしそうした経験を経て実力がつき、成長していくのです。若い人たちは少々手荒い方法でも、掘り出せば出すほど力が出てくる。それがおもしろくて教員をやっていたのかもしれない。

教室となったアトリエ(右奥)。手前の休憩所では、毎朝ラジオ体操をしていました。



大物を釣り上げるのは、釣りの醍醐味のひとつ。



独自の算数指導「おいどん式」を確立し人生に悔いなし

笈川 信昭先生
Nobuaki Oikawa

昭和45年文教大学付属小学校(溝の口小学校)に就任。溝の口小学校の閉校に伴い、昭和60年から石川台小学校に就任。小学校教頭と園長を兼任後園長専任。平成22年退職。

「受験算数」を追求することの生きがい。40年近くに及ぶ教師生活を振り返って思うことはこのことです。もともと好きなことはとことん追求していくタイプで、興味を持つと教材研究を重ね情熱を注いで取り組みます。「受験算数」を教えることが楽しくて仕方がない。算数は心血を注いだ授業ですから目立ちますし、評価も高い。そのうちに、高学年の担任、算数を専門に教えることになりました。受験対策にも応じ、いかにして希望校に合格させるかを考えたとき、独自の「おいどん式」がスタート。「おいどん」の「おい」は笈川のおいです。

大っぴらな性分ですから、子どもたちが家に遊びに来たり、

父兄の方にディナーをご馳走になったりということがよくありました。当時の父兄とは今でも交流があります。私は釣りが大好きで月2回(1泊2日舟中泊)で伊東マリーナへ行きます。友人のクルーザーで、伊豆大島でマグロと格闘。50kg1本と20kgのメジマグロ3本を釣りました。先日そろそろ人生を終える用意をしなければと思い、愛用の釣竿を処分しました。ところが生活に張りがなくなってしまい、おかしくなっちゃった。仲間も心配しますし、再び釣竿を握る生活に戻って次は何を釣ろうかなと考えています。

園長の経験が定年退職後、大学院入学のきっかけに

大学の教務畑に長い間勤めてきましたが、退職する最後の3年間は付属幼稚園の園長をさせていただきました。子どもは大好きでしたので、楽しい仕事の中で定年を迎えることができたことに心から感謝しています。と同時に、この園長としての経験がリタイア後の人生に大きな影響を及ぼすことになりました。なんと、幼児教育について学ぶために大学院に通うことを決めたのです。

子どもは無限の可能性を秘めた存在です。その可能性をどう伸ばしていくのか。それを考えることに、幼稚園の仕事の楽しさと魅力がありました。しかし私は幼児教育に関してはまったくの素人です。何色にも染まっていない子どもたちの「育ち」を支援するためには、正しい知識を持って導いてあげたかったとの思いが大学院入学の動機です。もともと歴史専攻だったので、修士論文は日本における幼児教育の歴史と発展といったテーマでキリスト教系幼稚園を取り上げ、故郷・北陸における発展の流れを掘り下げました。残念ながらコロナウイルス感染症のため卒業式はありませんでしたが、送られてきた卒業証書は宝物です。幸せな人生ですね。立正女子大学短期大学部から文教大学へ、



撮影で訪れた際に現任教員たちと記念撮影。

須原 洋先生
Hiroshi Suhara

昭和47年立正女子大学短期大学部に事務職員として入職。昭和60年からは文教大学湘南キャンパス事務局。事務局次長を経て、平成16年からは文教大学付属中学校・高等学校事務室事務長、平成22年から付属幼稚園園長に就任し、平成25年退職。

女子大から共学、そして総合大学へと発展するその歩みと、私が文教大学学園で過ごした日々は重なります。今でも新聞などに掲載された文教大学の記事を見るとすごくうれしい。学園の発展の一端を担えたことに誇りを感じています。

文教大学学園 校友会の輪

2012年に発足した「文教大学学園校友会」は各高校友団体の連合体です。校友同士の輪(和)の形成を目指しています。

活動紹介

2019年度もさまざまなイベントが開催され、絆が深まりました。

文教大学 藍蔞会

会員数:43,679名
問合せ先:[藍蔞会事務局]〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337
☎048-974-8811 ☎048-979-6644
✉aitade@www.bunkyo.ac.jp
🌐https://www.bunkyo.ac.jp/etc/aitade/

藍蔞会は大学の同窓会として1973年の発足以来、全国の卒業生のより所として、また、母校文教大学の発展を願い活動を続けています。昨年度も総会・支部活動をはじめ、クラブOBOG会、クラス会、湘南ホームカミングデー、ご退職なさる教職員を囲む会など、多くの卒業生が交流を深めました。卒業生一人一人が築いてきた力と絆を大切に、今年度も活動します。



文教大学附属高等学校 三蓉会

会員数:24,180名
問合せ先:[三蓉会事務局](木曜日開室)
〒142-0064 東京都品川区旗の台3-2-17
☎03-3784-0524
✉sanyokai@hatanodai.bunkyo.ac.jp

三蓉会では会員(卒業生・現旧教職員)の方々に楽しんで参加していただけるイベントを企画し、また在校生や学校行事に対しても支援しています。ますますの母校の発展を祈っています。



文教大学経営情報専門学校 翔華会

会員数:2,842名
問合せ先:✉arao@stf.bunkyo.ac.jp(担当:荒尾)

1998年3月の経営情報専門学校閉校と同時に記念誌「翔」を発行し活動は休止しています。卒業生は仕事にプライベートに忙しい世代です。再び「翔」ける日まで充電中です。



文教大学女子短期大学部 芙蓉会

会員数:30,157名
問合せ先:[芙蓉会事務局](火曜日・水曜日開室)
〒253-8550 神奈川県茅ヶ崎市行谷1100
☎0467-52-4075
✉fuyou@www.bunkyo.ac.jp
🌐http://www.bunkyo.ac.jp/etc/fuyou/

芙蓉会は旗の台キャンパスと湘南キャンパスの卒業生を会員に持ち、会報などを通じて会員の絆を大切にしています。昨年は大学・藍蔞会と「ホームカミングデー」を共催。今後も絆を大切にしながら活動していきます。



文教大学附属小学校 同窓会

会員数:2,339名
問合せ先:〒145-0065 東京都大田区東雪谷2-3-12
☎03-3720-0792 ☎03-3720-1117
✉bersc_2008@yahoo.co.jp 🌐www.ikd2008.com

矢野元校長先生の熱い思いから2008年に誕生した同窓会も、初の2クラス50名が卒業し、64期生を迎えました。今年のフェスティバルは残念ながら来年に延期となりましたが、来年笑顔でお目にかかれることを心より祈っております。



文教大学学園退職職員の会

会員数:58名
問合せ先:〒146-0085 東京都大田区久が原1-32-2
☎03-6410-9943(担当:鈴木)

文教大学学園(旧立正学園)の職員であったことの喜びと誇りと榮譽を持つとともに、会員相互の親睦を図ることを目的に発足しました。再び活動できる日まで情報収集を行っていきます。



ホームカミングデー

大学・短期大学の卒業生と教職員(退職者含む)約100名が集まりました。展示や講演会、懇親会などを通して親睦を深めました。

日時:2019年11月30日(土)
場所:湘南キャンパス
主催:文教大学・藍蔞会・芙蓉会



文教大学附属(溝の口)小学校校友会

会員数:約400名
問合せ先:〒195-0061 東京都町田市鶴川3-14-2
☎042-737-7160(担当:5回生 秋元)
✉tsutomu_akimoto1214@yahoo.co.jp
🌐http://www.yannet.biz/bunkyo-koyukai/(担当:17回生 矢内)
Facebookもあります!HPともに「文教大学附属溝の口小学校校友会」で検索

溝の口小学校・幼稚園跡地は現在高津図書館となり、1988年にブロンズ像、2018年には説明文(Relations)を設置・製作できました。近くにお越しの際や大山街道散策のついでにぜひお立ち寄りください。



イベント報告

昨年9月「創立者が眠る身延山・甲府バスの旅」の報告は溝の口小学校校友会HPをご覧ください。

文教大学父母と教職員の会

会員数:8,442名(正会員/在学生 大学院78名・専攻科2名含む)、357名(教職員会員)、100名(賛助会員)
問合せ先:[父母教越谷事務局]〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337
☎048-974-8811 内線1051
[父母教湘南事務局]〒253-8550 神奈川県茅ヶ崎市行谷1100
☎0467-53-2111 内線640
✉fubokyo@stf.bunkyo.ac.jp
🌐http://www.bunkyo.ac.jp/etc/fubokyo/

本会は、創立44周年を迎えました。保護者と教職員が緊密に連絡・協力して、文教大学の発展・向上に寄与することを目的に、全国45支部での総会・研修会、学生の諸活動や生活及び就職対策支援、100円朝食の共催、学園祭への参加などさまざまな活動をしています。学生が卒業した後も、保護者が賛助会員として会を支えています。



三蓉会 同窓会

18歳~80歳以上の同窓生や先生方...約120人と楽しいひと時を過ごしました。キャラクター達も遊びにきてくれました。



日時:2019年10月20日(日)
場所:東京ディズニーランドホテル 主催:三蓉会

文教森の会 旧文教大学付属幼稚園(越谷)同窓会

会員数:58名
問合せ先:〒332-0035 埼玉県川口市西青木2-4-41-510
☎048-252-1757(担当:林) ✉fmk.61012@aa.cyberhome.ne.jp

昨年度は卒園生の関係者や地域社会の人を交え、「元荒川土手でのオリエンテーリング」を2回開催。8月の「親子三世代が楽しめるハケ岳一泊バスツアー」も大盛況で、34名(1歳半~78歳)が夏のハケ岳散策やバーベキューを堪能しました。



イベント 元荒川いきもの観察&クリーンアップ

2020年10月、2021年3月の2回イベント開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の終息が見えません。従って、本年度は中止とさせていただきます。ただ、「元荒川土手でのオリエンテーリング」使用時の「観察BOOK」を冊子にまとめ、卒園生の皆さまに配送いたしますので、楽しみにお待ちください。

文教大学ビジネス同友会

会員数:220名
問合せ先:〒142-0064 東京都品川区旗の台3-2-17
☎04-7145-5036 ✉bunkyo.bd@gmail.com
🌐http://bunkjobiz.net/

さまざまな職場で日々奮闘する同窓生が、縦横のつながり、親睦を深めています。新入社員から60歳超のベテランまで、短大を含む全学部の文教OB、付属校卒業生が会員です。キャリアサロンや大学ゼミとの連携、在学生支援にも積極的です。



イベント 第7回総会パーティー

時期:2020年10月以降、土曜日17時~。
会場など詳細未定。HPをご確認の上、お気軽にご参加ください。

学園 NEWS

日々着々と進化していく文教大学学園の
1年間のニュースをお届けします！

幼稚園

笑顔・声援・拍手の『生活発表会』

2020年2月22日、『生活発表会』を行いました。ひよこ組(3歳児)の演目は『おふろにいられて』。かわいいおばけや動物たちになってみんな仲良くお風呂にはいりました。梅組(4歳児)の演目は『やんちゃ怪獣どっかーん』。やんちゃな怪獣と周りの動物たちのお話です。仲良くなるために大事なことを教えてくれました。松組(5歳児)の演目は『アラジンとまほうのランプ文教バージョン』。一人ひとり役になりきっていました。毎週行っていた英語のレッスンの成果として英語のセリフも取り入れました。各学年、1年間幼稚園での成長を保護者の皆さまにお見せできた一日になりました。



学園

校友会向けサービスのご案内

文教大学学園校友会では、校友の皆さまの利益向上を目的に、「転職サービス」(株式会社パソナによる登録者様への求人企業紹介)と、「フォトブックサービス」(富士フィルム株式会社が提供する、20%OFFでフォトブックを作れるサービス)を行っています。校友会HP (<https://www.bunkyo.ac.jp/stf/alumni/>)からぜひご利用ください！

小学校

英語の絵本コーナーで英語を身につける

小学校には、校舎の真ん中に図書館があり、図書館を取り囲むように教室が設置されています。誰もがいつでも本を取り取りやすい環境です。本の中には、英語の絵本も用意しており、英語の段階から英語に触れさせることで、英語を抵抗なく学べる環境づくりをしています。また、絵本は日本でもよく知られた物語を用意し、日本語版と英語版で読み比べができるようにしています。



※蓄語：個人々の内面に積まれていく語彙

中学校
高等学校

探究学習発表会

2020年2月7日、1年間の探究学習の成果発表をする「探究学習発表会」を実施しました。生徒たちは、自分たちで動画や資料を作成し、プレゼンテーションソフトを活用して内容をまとめ、クラスごとに発表しました。

本校では、2019年度から1人1台のタブレットPCを導入したこともあり、編集技術やプレゼン力がさらに高くなったように感じました。



大学

健康栄養学部福永ゼミナール考案『湘南ポモロン大福』が「神奈川なでこブランド2020」に認定!!

健康栄養学部福永ゼミの学生が茅ヶ崎市にある和菓子店、湘南菓庵 三鈴と開発した『湘南ポモロン大福』が、「神奈川なでこブランド2020」に認定されました。『湘南ポモロン大福』は新品種のトマト「湘南ポモロン」を使った和菓子です。「湘南ポモロン」は、神奈川県農業技術センターが研究開発をした新品種のトマトで、野崎農園が栽培していました。新品種ということもあり、知名度が低く魅力を伝えきれていないという課題がありました。そうした中、野崎農園より相談を受けた横浜銀行は、地域振興事業の一環として茅ヶ崎市と本学を交えて「湘南ポモロン」の魅力を広めるためのプロジェクトを立ち上げました。プロジェクトでは、本学の福永淑子教授が専門とするセミドライ技術に注目し、福永教授指導のもと、福永ゼミの学生(4名)が湘南菓庵 三鈴とともに「湘南ポモロン」を使った商品開発をしました。現在は、湘南菓庵 三鈴の店舗で販売しています。(1個200円(税抜))



学園

BUNKO オリジナルグッズ販売中!!

昨年より販売を開始した、文教大学公式マスコットキャラクターBUNKOのグッズが引き続き販売中です。昨年のあやなり第6号で紹介したグッズのほか、3つの商品を追加いたしました。



BUNKOリアルバスポート BUNKOの文庫カバー BUNKOぬいぐるみキーチェーン

各商品、郵送での販売も行っています。詳細は、こちらをご覧ください。
https://www.bunkyo.ac.jp/about/public_relations/goods/



大学

小学校/中学校 教員採用者数全国第1位!

2020年4月14日発売、『大学ランキング2021』(朝日新聞出版)によると、教員採用数(2019年大学通信調べ→2018年度実績)は以下の通りでした。

小学校		中学校	
国公立	全国第5位(254人)	国公立	全国第2位(119人)
13年連続	私立大学 全国第1位	7年連続	私立大学 全国第1位
1 北海道教育大	289人	1 北海道教育大	140人
2 大阪教育大	266人	2 文教大	119人
3 東京学芸大	261人	3 東京学芸大	97人
4 愛知教育大	256人	4 愛知教育大	96人
5 文教大	254人	5 大阪教育大	95人

大学

「企業の人事担当者から見た大学イメージ調査」 「採用を増やしたい大学」2位にランクイン

2020年6月3日発売、『日経キャリアマガジン特別編集 価値ある大学2021年版』によると、「企業の人事担当者から見た大学イメージ調査」で、文教大学が「採用を増やしたい大学」2位にランクインしました。

「採用を増やしたい大学ランキング」では、採用実績のある大学について、「今後の採用(全体に占める構成比率)を増やしたいかどうか」を質問しており、特定の大学の採用実績があると回答した企業の中で、その大学の採用数を増やしたいと答えた企業の割合をランキング化しています。上位10校の多くを国立大学が占めるなか、文教大学は2位にランクインしました。

【出典】日経キャリアマガジン特別編集 価値ある大学2021年版(日経HR/2020年6月3日発行)

幼稚園・小学校・中学校・高等学校 入試関連イベントのお知らせ

入学・入園をお考えの受験生やその保護者の皆さまをはじめ、多くの方々に本校の様子や教育方針、教育内容を知っていただくため、学校説明会など、各付属校でイベントを開催しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、少

人数での開催や、オンラインでの開催などの感染防止対策を行いながら実施しております。詳細は、各校ホームページに掲載しておりますので、ご確認ください。

中学校・高等学校

<https://www.bunkyo.ac.jp/jsh/>



小学校

<https://www.bunkyo.ac.jp/ps/entrance/index.html>



幼稚園

<https://www.bunkyo.ac.jp/faculty/youchien/admi/index.htm>



アンケートへのご協力ありがとうございました!

八ヶ岳寮でお待ちしています

「あやなり」第6号のアンケートでは卒業生の皆さまから八ヶ岳寮周辺のおすすめスポットをお寄せいただきました。

八ヶ岳に行く時は、必ず食事に「清里萌木の村 ROCK」へ。雰囲気も良いし、広いし、美味しい。ハイランドホテル近隣のバターゴルフも楽しかった思い出あり。(女子短期大学部卒業生)

野辺山宇宙電波観測所、八ヶ岳高原音楽堂、八ヶ岳高原ロッジ(女子短期大学部卒業生)

イチオシはやはり『萌木の村』と『清泉寮』です。特に萌木の村の夏のフィールドバレーは必見です。(付属中高卒業生)

あやなりWebサイトでは、皆さまの八ヶ岳にまつわるエピソードも紹介しています▼



足立区 寄り道 ガイド

東京あだちキャンパスの拠点となる足立区には、家族や友人と気軽に立ち寄って楽しめるスポットがたくさんあります。東京あだちキャンパスとあわせて、ぜひ訪れてみてください。

日光街道で最初の宿場として発展してきた足立区には、西新井大師などに代表される多くの名所旧跡があります。水辺や緑など自然も豊かで、区立公園の面積は23区内で第一位です。近年は子育て支援や安心・安全なまちづくりなどが進められ、「住みたい街」としても注目が高まっています。

関東の三大師のひとつ 西新井大師

天長3(826)年に弘法大師(空海)が訪れたことで創建されました。特に女性の厄除けに御利益があるとされ、肌の悩みを持つ人が訪れる「塩地蔵」などの参詣スポットもあります。

☎03-3890-2345 ■東京都足立区西新井1-15-1
🚶東武大師線大師前駅から徒歩5分



子どもの好奇心を育てる ギャラクシティ

子どもたちが遊びや体験を通じて学べる体験型複合施設。国内最大級のネット遊具やクライミングウォールがあり、そのほかにもワークショップを開催しています。(一部のアトラクション・イベントは中止している場合があります)

☎03-5242-8161 ■東京都足立区栗原1-3-1
🚶東武スカイツリーライン西新井駅から徒歩3分



自然と生き物が集まる空間 桑袋ビオトープ公園

足立の自然の姿を取り戻そうと、桑袋小学校跡地につくられた公園。草地、林地、水辺などのゾーンがあり、それぞれの環境で自然体験ができます。

☎03-3884-1021 ■東京都足立区花畑8-2-2
🚶東武バス[竹14][谷01]保育所前から徒歩5分



「酉の市」発祥の地 大鷲神社

やまとたけるのみこと
御祭神である日本武尊の命日とされる11月酉の日に行っていた神恩感謝の祭が「酉の市」の起源と言われています。毎年11月の「酉の市」には多くの参拝者が訪れ賑わいます。

☎03-3883-2908 ■東京都足立区花畑7-16-8
🚶東武バス[谷01]草加記念体育館から徒歩8分



足立区に縁のある文教人のおすすめスポットを9ページに掲載しています。
あやなりWebもチェック▶



「あやなり」アンケート協力をお願い

「あやなり」は、皆さまからの意見をもとに制作しています。

同封の「アンケート用紙」や「あやなりWebサイト」

からご意見をお寄せください!!



プレゼント
クイズ



7ページに掲載されている「拓く」という
きごう
書を揮毫したのは誰でしょう? ヒントは
12ページに隠れています。

2020年10月31日(土)までにご回答いただきました方のうち、正解者の中から抽選で10名様に、「文教大学公式マスコットキャラクター BUNKOグッズ」をプレゼントします♪

編集 後記

文教大学学園に関わる“人”や“物”を紹介してきました「あやなり」も第7号を発行する運びとなりました。第7号では、2021年4月に開設いたします「東京あだちキャンパス」を特集で紹介いたしました。卒業生の皆さまと一緒に、キャンパス開設を盛り上げていただけますと幸いです。そして開設後には、ぜひキャンパスにお立ち寄りいただけますとうれしいです。(経営企画課 校友会担当)

※ 送付先住所は、各校友団体の協力を得て最新のデータで送付しておりますが、旧住所や宛名間違い等がございましたらご寛恕ください。その場合はご連絡いただけますと幸いです。

※ 「文教人」の卒業生数は、本学園創立から2020年3月までの、各校の卒業生数を集計したものです。複数校を卒業している方の「名寄せ」は行っていませんのでご了承ください。また、付属中学校・高等学校については、高等学校卒業時点でカウントしています。

あやなり

文教大学学園校友会報
2020.8.31 第7号

発行：文教大学学園
編集：経営企画局 経営企画課
制作：文化工房

〒142-0064 東京都品川区旗の台3-2-17
TEL:03(3783)5511(代)
FAX:03(3783)6109
E-mail:alumni@stf.bunkyo.ac.jp